

科技高 いきもの記 Vol.67 2022.12.16

生物教員 佐藤龍平

危険だけど美しい！ コガタスズメバチの巣

12月のある日、「猿江公園に行ってみよう」といつものように虫採りに出かけたタツキを見送り、生物室でヒキガエルを愛でていると、しばらくして電話が鳴った。「猿江恩賜公園サービスセンターですが、そちらの生徒さんが…」と言われた瞬間、体が硬直したのを感じた。近隣からの苦情が来てしまったか…！誰が…（いやタイミング的にこれは自明か）…いったい何をやらかしたんだ。色んな可能性が一瞬で頭をよぎり、受話器を固く握りしめながら話を伺う。「いや、そちらの生徒さんがね、公園のスズメバチの巣を取りたいと言っているんです。駆除する日程をそちらに合わせますから、見に来ますか？」…え？…ん？「撤去した巣は生徒さんにあげますから」えええ？！思わぬ話の展開に意表を突かれてまごまごしてしまった。巣の駆除作業に立ち会わせてもらえる上に、巣を頂けるとは！な、なんと親切な方々なのだ…！

何を隠そう、スズメバチの巣は私にとって憧れの存在だった。生物が作ったとは思えない美しい造形と模様に加え、簡単には手に入らないことも相まって、小さい頃から無性に惹かれる存在だったのだ。個人で取ることは難しいし、駆除されたものはふつう（大人は）貰えない（当たり前）。大学時代、教室の窓にできたスズメバチの巣を観察するのを日々の楽しみにしていたのに、知らぬ間に駆除されてガッカリしたのを思い出した。危険生物なので駆除は仕方ないが、虫好きからしてみればスズメバチはとても格好良い魅力的な生物なのだ。

生徒よりも自分が興奮している感じが否めないが、そんなこんなで有難いことに駆除の日に呼んでいただいた。タツキと一緒に公園に行ってみると、サービスセンターのアキヤマさんとトヨフクさんたちが迎えてくれた。トヨフクさんが完全防備の防護服を着てスズメバチの巣を取り除く様子を見学させていただく。6mほどの高さまで梯子で難なく登っていき手際よく作業していく…さすがだ。巣の中には働きバチや雄バチがまだ残っていて、枝が揺れたらわらわらと巣の外に出てきた。

スズメバチは、冬になると女王バチだけが倒木の中などで冬眠し、巣は放棄される。働きバチや雄バチは冬までに全て死んでしまう（※）。そして春になると冬眠から覚めた女王が再び巣を作って新しい家族を形成するのだ。今回のこの巣も、じきに放棄されるのだろうが、中を覗くとまだ卵や幼虫がいるのが見えた。まだ使われているスズメバチの巣の内部を覗く機会なんてなかなか無い。大変貴重な経験をさせていただいた。（…と感動している横で、タツキは巣に残ったハチの死骸をガシガシ採集しまくっていた。）

※巣が空かどうかを素人が見分けることは難しいので、季節に関わらず良い子は絶対にハチの巣に近寄らないようにしましょう。

スズメバチ駆除のための防護服内側に厚みのあるメッシュ素材を着ることで、スズメバチの針が肌に届かないようになっている。

※公園管理者と教員の指導の下で見学しています。



↑コガタスズメバチの巣

既に空になった巣かと思ったが、刺激したらハチが出てきた。この写真には7匹のハチが写っている。（矢印）



薬剤を噴霧するノズル

↑巣に薬剤を噴霧する ハチの姿が見えたので、すかさず薬剤をかける。スプレー缶から伸びる長いノズルが特徴的だ。



コガタスズメバチの巣

トヨフクさん

↑コガタスズメバチの巣の駆除作業 防護服姿で慣れた手つきで梯子に登るトヨフクさん。



幼虫

卵

↑巣の下部から覗いた様子 ※ハチはすでに殺虫剤で死んでいる